



こうべ森の学校だより

No. 52, 2013. 6月号

10周年記念特集号3

発行人：こうべ森の学校 編集委員会
 発行所：神戸市北区山田町下谷上字中一里山4-1
 神戸市森林整備事務所内
 Tel：078-371-5937 Fax：078-371-1087

生物多様性を意識した里山管理のすすめ

兵庫県立 人と自然の博物館 主任研究員 橋本佳延

みなさんは、生物多様性という言葉をご存じですか？この言葉は、日本が1992年の生物多様性条約を批准した頃から少しずつ私たちの暮らしの中で使われるようになった、まだまだ若い言葉です。2010年に愛知県で生物多様性条約締約国会議（COP10）が開催されたこともあり、近年ではその使用頻度も高くなってきました。国の調べでは国民の約半数はこの言葉を何らかの形で耳にしているそうです。

生物多様性は、文字通り「様々な生きものが存在している状況」を指す言葉ですが、単に種類が多い（種多様性）というだけでなく、森、川、海といった環境と生きものとの関係があって成り立つ「生態系」が様々であること（生態系の多様性）や個体ごとに個性がある状態（遺伝子の多様性）も含まれます。近年、その生物多様性が世界中で、日本各地で消失の危険にさらされています。また、生物多様性が私たちの生活に欠くことのできないものであることも指摘されるようになりました。私たちが「自然の恵み」という言葉で表現するものがそれに該当します。難しい言葉では「生態系サービス」と表現され、そのサービスは「供給」「調整」「文化」「基盤」の4つに大別されており、「供給サービス」は主に物質的な恵みを、「調整サービス」は人間に快適な生活環境もたらすもの、「文化サービス」は精神的な豊かさをもたらすもの、「基盤サービス」は、前述の3つのサービスを支える基礎となるものとされています（紙面に余裕がないため、詳しくは類書にあたっていただければ幸いです。）

さて、六甲山は、江戸時代から明治後期にかけての期間、薪炭材や緑肥の採集を目的とした過度な里山利用が原因で「はげ山」となっていました。また、そのことにより六甲山では土砂災害が頻繁に起こったことは多くの方がご存じかと思います。「はげ山」化により発生する土砂災害を防ぐために

先人たちが積極的に緑化をすすめたおかげで、現在では再度山周辺を含め六甲山地のほとんどの地域で樹高が20mを越えるアカマツやコナラに覆われる立派な林となりました。また生きものが豊かな環境が回復、私たちがレクリエーション活動で楽しく過ごせる環境となりました。このことを「生態系サービス」の考えにあてはめると、かつては薪炭・肥料という「供給サービス」を過剰に求めたためにはげ山となり、土砂災害防止といった「調整サービス」が損なわれていましたが、緑化によって「調整サービス」が回復し災害の起こりにくい環境へと変化、生物多様性の豊かな森林の回復によって魅力的なレクリエーションの場となり「文化サービス」も高まっている、と説明することが出来ます。



このように、かつてに比べ生物多様性も、その恵みである生態系サービスも高まってきた六甲山ですが、それらを維持・向上させるためには里山管理が欠かせません。再度山には来歴のわかった里山が広がる貴重な環境があると国際的にも認められ、永久植生保存地が設定されています。皆様の活動に生物多様性の観点を加え、定期的に管理の効果を検証するプログラムを加えることで、さらに素晴らしい森林の広がる再度山となることを期待しています。



橋本先生を囲んで（5月11日、記念講演会にて）

2009年

- 4 新体制による活動を開始
- 7 こうべ森の学校のリーフレットが完成
- 11.26 ログハウス前にエンゲルマントウヒ植樹
- 11 神戸市広報誌「Kobe」11月号に、森の文化祭(写真16)と「こうべ森の学校」を紹介



090321 ヤマサクラの植樹



写真 16

2010年

- 2 遊歩道に植樹(ヤマザクラ93本、モミジ39本)
- 3.13～18 インスタレーションin 風楽山荘「六甲の森」を開催
- 5.26 東お多福山のスキ草原再生活動に初参加(写真17)
- 10.11 → 29 COP10 名古屋開催される(生物多様性条約第10回締約国会議)



写真 17



110611 森の作業所

2011年

- 3.16～17 再度炭を震災に禍った伊藤ハム栗原工場へ送る
- 4.17 東日本大震災義捐金の協力を例会参加者に呼びかける
- 6.11 森の作業所完成、市民参加の木工教室開催
- 10.28 六甲山市民宣言を採択
- 11.1 「都市政策」にて、東郷代表が森の保全活動について発表。
- 11.27 六甲山の森づくりフォーラム(相楽園)、「六甲山の曲」を披露。伊藤ハム上村さん森の学校東郷代表が「協働による森づくり」のテーマで発表



111103 森の文化祭

2012年

- 1.19 樹木医による松に関する勉強会開催
- 1.27～28 「ゆりりん愛護会(名取市)」と佐藤さんらが懇談、第一回の義援金を贈呈。仮設住宅用の表札を提供(写真19)
- 1.26 六甲山森林整備戦略(案)の説明会
- 2.19 活動参加者累計1万人超え。記念イベントとバーベキューパーティーを開催
- 4.27 六甲山森林整備戦略発表
- 9.6 矢田神戸市長が風来山荘でスタッフと談話、こうべ動画館で放映
- 10.1 「都市政策」に、「協働と参画による六甲山を生かした神戸づくり」を東郷代表が発表
- 11.26 「ゆりりん愛護会」の大橋会長が来所、第二回の義援金を贈呈(写真20)



写真 19



写真 20

2013年

- 2.5 こうべ動画館で「こうべ森の学校」が紹介される(写真21)
- 4.21 10周年記念行事を盛大に開催
安全マニュアル入門編を改訂版を発刊、講習会を開催(写真22、23) (写真24)
- 4.22 神戸新聞に「再度山の森守り10年」掲載
- 5.11 記念講演会：橋本佳延氏「生物多様性の保全と活用をめざした里山管理」
- 6.6 全国森林レクリエーション地域美化コンクール会会長賞 受賞



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24

六甲の花散歩 (その27)

— ホオノキ (朴の木) — (モクレン科)

神戸市立森林植物園 福本 市好

月中ごろ、ホオノキの天に向かって大きな冬芽がほころび始める。柔らかな薄黄緑の葉が青い空に開く様は実に美しく見とれてしまいます。そして5月、新緑が日増しに変化して、山に花が途切れ、緑色のトーンが落ち着きかけた頃にひときわ目立つ大きな白い花が咲きます。ホオノキは遠くからでもその特徴的な大きな葉と樹形から知ることができますが、この花にはとてもよい芳香があり、ハイキング道などでこの木の近くに行くと、何とも言えない高貴な香りが漂ってきて気づくことがあります。あっ！ホオノキが咲き出したと。ところが近づくと適当な高さに花がなく、見上げて大きな葉が輪生しているのでお目当ての花との対面は難しいです。まさにこの花の別名を二階花と呼ぶようにそれ位の高さからでない見えにくいということでしょう。この木は生長が早く10年程すれば見上げるほどの高さに生長し、枝先に大きな葉を広げるとその存在感を表します。よく植物観察会で「この木は何歳でしょうか？」と問いかけると、その生長のパワーに驚いて、

木を見上げながら“ほおー”と声が出るほどです。

もし、近くでこの花を観察できるときは花のしくみに注目してほしいのです。乳白色の大きな蕾が開いた一日目は雌花として咲き、上部の赤紫色の多数の雌蕊を開いて他の花の花粉を受け、夕方閉じます。翌朝二日目、雌蕊は閉じて雄花として下部の多数の雄蕊から花粉を放ちます。三日目、開花したとき、雄蕊はバラバラ散り始め、その後は花びらも変色し数

のもつ巧妙な仕組みは実際にその様子を観察することで更なる不思議や興味として膨らんでいきます。

秋になると、松ぼっくりかトウモロコシのような赤い大きな実をつけます。この果実はコブシなどのモクレンの仲間と同じ、集合果でたくさんの袋状の中に赤味を帯びた色の種子が入っています。昨年、この熟した果実を植物園で展示



樹幹と木肌

したら、「ふしぎな物体？」と来園者が見入っておられました。私が「このタネには、へその緒がありますよ！」お話して、果実から一つのタネを引っ張り出すと、白い糸で繋がって……“あらまー！すごい！”と言われました。そんな事もあって、森林展示館では木の実など実物を展示するように心がけるようにしています。



果実(集合果)

晩秋、うす褐色になったホオノキの葉が舞い降りたときは、空が大きく明けて足元に大きな葉が敷き詰められ、季節の移り変わりを感じさせてくれます。一年を通じて、身近に観察したい樹木として森林植物園では「香りの道」沿いに地形を考慮して谷側に植栽し、目の前でこの花を観賞していただけるようにしています。ところが年々、花のつく位置が高くなり、別名の二階花から三階、五階花と改名しなければと思うほど大きく育っています。この道からは、東には遠くに摩耶山や黒岩尾根の山腹が望むことができ、遠目に咲くホオノキやヤマボウシなどの四季折々 樹冠のようすの装いが遠近で楽しむことのできる散策コースとなっています。ぜひ一度、歩いてみてください。



樹冠のようす

これからの季節、森林植物園は「あじさい散策シーズン」をむかえます。園内にはたくさんの種類のアジサイが次々と色づいてきます、梅雨を彩る花々との出会いをお楽しみください。

今年も『森の中のあじさい散策』(期間：6月15日～7月15日)へのご来園をお待ちいたしております。



開花直前の蕾

ホオノキ：花(アップ)
1日目の雌花期

3日目の花

日で花の命を終えます。つまり自家受粉を避ける仕組みになっているのです。このような特徴をもったホオノキは被子植物で、進化的分類学的には原始的とも言われるモクレン科のなかまで、最も大きな花と葉をつける魅力ある樹木なのです。このような植物

全国森林レクリエーション協会**地域美化活動コンクール**

こうべ森の学校が協会会長賞を受賞

全国森林レクリエーション協会が毎年公募している地域美化コンクールに昨年12月応募、県の推薦を得て、4月に協会会長賞受賞が決まりました。

こうべ森の学校が再度公園にあって、2003年に創設されてから取り組んできました森の手入れを中心とした活動の概要を中心にして、毎月の例会や週3日の活動日に行っている本格的な除間伐・下草刈り・山道の整備・植生調査と保護・樹

名札・苗作りと植樹・等々で爽やかな風が流れ、太陽の恵みで森林公園に相応しい森になったこと。さらには森の恵みを活用した炭焼き・キノコ栽培・木工などの成果で、東北名取市の「ゆりりん愛護会」の防風林再生を支援していること。そして修法ヶ原池周辺のマツの保全に協力していることなどこれまで10年間の地道な活動が評価されたものと思います。

表彰式が6月6日と言うことで森学だより52号に写真等を掲載することは出来ません。頂いた賞状は風楽山荘内に展示していますのでご覧ください。
(代表 東郷 賢治)

私と六甲山

スタッフ 稲垣祥二

六甲山は紫？ 中学校では「むらさき匂う六甲の、山並み空にさやかなり・・・」と、また高校では「紫の、紫の六甲の嶺に輝よる・・・」と歌いました。また、社会人になってからは職場の夜勤明けで芦屋川からロックガーデンを経て最高峰に登り、一軒茶屋で昼寝をして有馬温泉に浸かって帰ったこともたびたびありました。家族を持ってからも家族で行った“東お多福山”のハイキングの時、娘がお昼の弁当時に食べたおにぎりの中の梅干の種を噛んで抜けかけていた乳歯が抜けて

山頂近くに埋めてきた、という思い出もあります。

私の還暦に当たる時に 腎臓の病を克服し六甲全山縦走に参加しました。縦走路の後半は日も暮れてしまいましたが、素晴らしい夜景を眺めながら宝塚へ到着した事等々、六甲山の思い出がいっぱいです。

この様な思い出が次世代の人々にも語り継がれる事を願っていたのですが、3年前に知った「こうべ森の学校」へ入学し、先輩諸氏の良き指導を得て「森の除間伐、炭焼きの体験、小鳥の巣箱掛け、キノコ採取」等にはまり込んでいる昨今です。

最後に一言、「学校へ来る道を歩きながら四季の移ろいを感じる」時、私は幸福感で一杯です。

再度炭に思う

スタッフ 林 功

私たち森の学校では、間伐した木を利用して毎年2～3回炭焼きをしています。

そこで出来た炭、木酢は、「再度」の名を冠してログの玄関に展示してあり、訪れたハイカーがそれを家庭で使用され喜ばれています。その際に「東日本大震災」への募金として投入してもらったお金は宮城県名取市の「ゆりりん愛護会」へ寄付し、震災で全滅した当地、閑上（ゆりあげ）浜の松林再現事業に役立っています。

都市ガスが完全に普及していなかった昭和20～30年頃までは炭や薪は一般家庭では貴重なエネルギー源であり、町の炭薪店で買い求めたものです。今ではお茶席や料理屋で使用する高級な炭は別として、海外からの輸入品が多いと言われています。

都会から近いこの再度周辺ではその当時、炭焼きが行われていたのでしょう。仙人谷から少し山道に入った場所で森の手入れをしている時に、炭

焼釜の跡を見つけたのは今から3年前でした。前方の火焚き口の石積み、後方の排煙口は崩れかかっているのもそれと判りました。天井部分は崩れ落ちてその上に流れ込んだ土砂が堆積していました。私たちはその土砂を丹念に取り除き釜全体の大きさ、周辺の石積みの様子、底部の粉炭の跡の写真保存して埋め戻しました。

地元の識者の話では、当時ある期間再度に逗留して炭焼を生業とした人（炭焼さん）が居られ、その子供さん達もその期間は地元の学校に通っていた、ということです。

時は流れ、今では炭の生産過程を知る人は殆どいないことでしょう。

森の学校で焼いた炭はご家庭の七輪で熱源として使用されているとは思えませんが、違った形の付加価値が加わり、それが大震災復興に役立って



炭焼窯跡

いることは意義あることと思っています。

■前々回の報告

平成 25 年 4 月 21 (日) : 参加者 149 名

- ◆ 10 : 30 10周年記念式典
- ◆ 12:00 .再度 風楽山荘の背山散策
- ◆ 12 : 30 ガーデンパーティー
「淡河ジャンベ会」によるアフリカン太鼓演奏
- ◆ 13 : 45 .安全マニュアルの研修会
14 時 45 分終了

■前回の報告

平成 25 年 5 月 11 日 (土) : 参加者 53 名

- ◆ 10 : 30 講演会 「生物多様性の保全と活用を
めざした里山管理」のテーマで、人と自然の博物

館の主任研究員 橋本佳延氏による記念講演会が
開催されました。関連記事 : p.1 に掲載。



◆ 12 : 45 背山観察
15 : 00 スタッフ会議

■毎週火、木、土の森の手入れ

- 4 月 延 13 日 で 参加者 192 名
- 5 月 延 11 日 で 参加者 152 名

お知らせ・掲示板

◆ 第 30 回 六甲山グループ祭～夏山びらき

6 月 1 日 (土) 六甲山記念碑台において、六
甲山開祖のイギリス人アーサー・ヘスケス・グル
ーム氏の功績を讃えるとともに、夏山シーズン中
の安全を祈願。六甲山幼稚園の園児によりグル
ーム氏のひ孫さんに花束が贈呈されました。

◆ 展望台の愛称募集

見晴台の愛称が「再度展望台」に決まりました。
約 2 か月に亘って愛称を募り、その間に 3 2 作品
の応募がありました。その中から会員の皆様に投票
をしていただき、投票総数 116 表中、「再度展
望台」最多票を獲得しました。森林整備事務所長
を交えた運営会議においてこのこの名称に決まり
ました。因みに、命名者は西井憲一さんと近藤勝
正さんです。

「再度展望台」に立って左に再度山、眼下に神
戸の街、茅渚の海 (大阪湾)、そして神戸空港、更
に向こうの関西国際空港、紀伊半島の眺望を満喫
してください。

◆ 東お多福山の手入れ

25 年度の行事予定は、7 月 24 日、10 月 9 日、
11 月 27 日 で、いずれも水曜日です。希望参加者
は事前に事務局へ申し込んでください。

◆ 摩耶の森クラブ

次回の月例会の開催予定日は、7 月 21 日 (土)、
8 月 18 日 (日)。

◆ こうべ森の小学校

次回開催予定日は、7 月 28 日 (日)。8 月は休み。

編集後記 : 最近、家の近くの休耕田が次々と貸農園に替わり、
静かだった散歩道も賑やかになってきた。借受人は、
とみると雰囲気的に現役引退後、「畑でも」という方のよう
で、毎朝、井戸端会議ならぬ畑づくり談義で皆さん楽しそ

“こんな珍鳥がやってきた！”

5 月 27 日の朝、森林植物園の森林展示館の玄関
に珍客が・・・ドン！と音がして、何かと職員が
出てみると、何と見たこともない綺麗な鳥が！！
来て来てと言われて行ってみると、私は見た途端
に“ヤイロチョウ”と叫んだ！でもなんで？と思
いながらアワテテ・・・カメラを取りに戻り、興奮
しながら数枚の写真を撮りました。

実はこのヤイロチョウは、玄関のガラスにぶつ
かり、しばらくの間、脳振動を起こしたようで、
ピクリともしないで数分間同じ姿勢(写真)でいま
した。その後、何もなかったように無事に飛び立
ってくれました。

※ヤイロチョウ(八色
鳥)は環境省レッドリスト
の絶滅危惧種 I B 類 (E
N) に指定された希少な鳥
類。〈参考〉数日後、日本



野鳥の会兵庫県支部からバードシートを届けてい
ただきましたので、事故防止対策としてガラス面
に貼っています。(神戸森林植物園 福本市好

会員活動の開催日予定

- ・森の手入れ (月例)
7 月 13 日 (土) ・ 8 月 18 日 (日)
- ・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から活動資金
を伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受
けて運営されています。

う。しかし、今年は梅雨入り発表後ほとんど雨が降らず、
各地のダム貯水量が激減し「梅雨入り発表が間違っていた
のでは」との声が出るほど、田植えの時期でもあり水不足
は大問題。しばらくは毎日の畑の水やりが大変そう。H,K)